

2015年1月18日 主日礼拝  
説教「ヨシュア物語③ エリコの城壁」  
ヨシュア記6章1-20節

【聖絶】

聖絶は、敵対する異民族の全員を殺すことを意味することばです。神さまは愛の神さまです。けれども、イスラエルの敵を全滅させることを命じる神さまは、ほんとうに愛の神さまなのでしょう。

聖書をよく読むと、聖絶について意外なことに気づかされます。実は、敵対する異民族に対してだけではなく、イスラエル人にも聖絶が行われることがあったのです。「ただ【主】ひとりのほかに、ほかの神々にいけにえをささげる者は、聖絶しなければならない」（出エジプト22：20）とあります。だから聖絶の目的は、ただイスラエルの危険を取り除くことだけではありませんでした。そうではなくて、問題は神と人との関係です。イスラエルが神さまから離れることがないように、イスラエルと神との関係が破壊されることをふせぐのが、聖絶の目的だったのです。神さまにとって、イスラエルとの関係は、それほど大切でした。イスラエルを愛し、イスラエルに愛されることをどうしても、守り抜こうとするのが神さまなのです。

【愛なる神さま】

だから神さまは、やはり愛なる神さま。その愛の神が聖絶をお命じになったのですから、他

にはイスラエルを守る手段がなかったにちがいありません。そして聖絶を命じる神さまには、激しい痛みがあったにちがいありません。

ときに旧約の神さまと新約の神さまはずいぶんちがうと言われることがあります。けれども、もちろん神が二人いるわけではありません。同じひとりの神さまです。イエス・キリストにおいて、人となり、十字架に架けられた神さま。私たちのために、そこまでの覚悟をもっておられた神さま。同じ神さまが、旧約の時代にも、同じ愛を注いでおられたのです。だから、旧約聖書のどんなに痛ましい記事であったとしても、必ずそこに神さまの愛を見つけることができるのです。

【すべての民族を】

「ただし遊女ラハブと、その家に共にいる者たちは、すべて生かしておかなければならない。あの女は私たちの送った使者たちをかくまってくれたからだ」（17）とあります。滅ぼされていく、ほんとうの神さまをしらない異民族。神さまはそのエリコの人々を惜しんでおられました。そしてエリコの町で、神さまに心を寄せたひとりの女性を救うように、聖絶しないようにと命じられたのです。

神さまの願いは、すべての異邦人がこの女性のように、神さまに心を寄せるようになることです。世界中のすべての人が、神さまと愛し合うことを心から願われるのです。そのためにこ

のときは、神さまは聖絶を命じなければなりません。イスラエルが神さまとの交わりの中を生きていくため、そしてやがて、イスラエルから御子イエス・キリストがお生まれになるためでした。それは、聖絶など必要のない世界をもたらすためでした。主イエスによって人の心を内側から作りかえるためだったのです。

【新約のクリスチャン】

聖絶の記事が私たちに教えるのは、神さまの願いを私たちの願いとすることです。私たちとの愛の交わりを守り抜くために、御子イエスを十字架に架けてしまわれた神さまの思いを知り、神さまとの交わりの中にとどまり続けることです。そして神さまの願いを私たちのうちにしみこませることです。

主イエスの十字架の贖いが為し遂げられた現代では、聖絶などはもう必要ありません。代わりに、主イエスは私たちに、敵を愛することを教えてくださいました。愛するということは、自分を与えることです。自分と対立する人々に自分を与える生き方です。

神さまのために聖絶を実行したイスラエル。もはや聖絶を実行しない私たち。その間には共通点があります。それは、神さまと愛し合うことをなによりも大切にすることです。そして神さまを知らない人々を、神さまと同じ思いで愛し続け、彼らのために痛むことをやめないことです。